

## 大豆の9月中旬の巡回調査結果の概要

【東北信】 調査日 9月19, 20日

(1) べと病

- ・全調査ほ場で発病が確認され、発病株率、発病度ともに平年に比べて高かった（写真1）。

(2) さび病

- ・調査ほ場内での発病は確認されなかった。

(3) 葉焼病

- ・全調査ほ場で発病が確認され、発病株率、発病度ともに平年に比べて高かった。



写真1 ダイズべと病（千曲市）

(4) 茎疫病

- ・調査ほ場内での発病は確認されなかった。

(5) ウイルス病

- ・東信地域の1ほ場でわずかに発生が見られた。

(6) 吸実性カメムシ類

- ・東信地域の1ほ場、ブヒゲカメムシの寄生を確認した。

(7) ハスモンヨトウ

- ・調査ほ場内では寄生は確認されなかった。

(8) 食葉性鱗翅目幼虫

- ・食害度は平年並みで、ウワバ類による食害が目立った。

(9) アブラムシ類

- ・寄生数は6調査ほ場中2ほ場で発生が多かった。他の4ほ場は少発生であった。
- ・調査ほ場全てで「ダイズアブラムシ」（写真2）の発生が確認された。佐久市の1調査ほ場のみ、「ジャガイモヒゲナガアブラムシ」（写真3）の発生が多かった。



写真2 ダイズアブラムシ（佐久市）



写真3 ジャガイモヒゲナガアブラムシ（佐久市）

【中南信】 調査日 9月 19、20日

- (1) ベと病
  - ・ 14 ほ場中 2 ほ場の発生であった。
- (2) さび病
  - ・ 今回の調査で、発病は確認されなかった。
- (3) 葉焼病
  - ・ 12 ほ場で発病が確認され、発病株率、発病度ともに平年に比べて高かった。
  - (写真 4)
- (4) 茎疫病
  - ・ 1 ほ場のみ発病が確認されたが、発病はわずかであった。
- (5) ウイルス病
  - ・ 今回の調査で、発病は確認されなかった。
- (6) 吸実性カメムシ類
  - ・ 7 ほ場で発生を確認した。



写真 4 葉焼病と病斑からの細菌泥の溢出



写真 5 吸実性カメムシ (左: ホソヘリカメムシ成虫、右: アオクサカメムシ幼虫)

- (7) ハスモンヨトウ
  - ・ 今回の調査で、発病は確認されなかった。
- (8) 食葉性鱗翅目幼虫
  - ・ 調査ほ場全てで食害が認められたが、食害度はほ場により差があった。
- (9) アブラムシ類
  - ・ 12 ほ場で寄生が認められた、寄生数はほ場により差があり 3 ~ 2280 頭 (50 葉あたり) であった。